

図書室だより〈4月〉

町民センター3階

※貸し出し冊数は4冊まで、期限は2週間です

今月のこの1冊

カンヴァスの向こう側 フィン・セッテホルム 著

リディアは絵を見るのも描くのも大好きな12歳の女の子。リディアが、美術館から行方不明になった。レンブラントの絵にさわり、描かれた17世紀にタイムスリップしてしまったのだ。

そのあとも、なぜかさわった絵の時代に次々と飛ばされ、描いた画家たちに出会う。

ペラスケス、ダ・ヴィンチ、ドガ、ダリなど時代や国の違う個性的な画家たちが、物語の鍵になる絵とともに登場してくる。



【開室時間】 火～金曜日 10:00～20:30
土・日曜日 10:00～17:00
祝日(29日) 10:00～17:00
【休室日】 毎週月曜日 ※蔵書点検のため 4/15～4/18

新しく購入した図書(主なもの)

- 一般書 ●
 - ・ミッドナイト・バス 伊吹有喜
 - ・怒り 吉田修一
 - ・注文の多い注文書 小川洋子
 - ・山桜記 葉室麟
 - ・夜明けのラジオ 石田千
 - ・首折り男のための協奏曲 伊坂幸太郎
 - ・なついた羚羊 バーバラ・ビム
- 児童書 ●
 - ・あたらしい子がきて 岩瀬成子
 - ・がっこうのおぼけずかん 斉藤洋
 - ・ゆみちゃんとえんぴつさん たるいしまこ
 - ・パピブペポーおんがくかい かこさとし
 - ・そとごはん ヘレン・オクセンバリー

みんな集まれ! 子どもの広場・おはなし会

◇子どもの広場
内容 「こいのぼり」をつくります
日時 4月26日(土) 10:00～
持ち物 はさみ、カラーペン
対象 5歳(保護者同伴)～
場所 町民センター2階 小会議室A
申し込みは直接図書室へ または、☎82-5221

◇おはなし会(第2土曜日、第4水曜日)
日時 4月12日(土) 10:30～
4月23日(水) 15:00～
場所 町民センター3階図書室
申し込みはいりません

毎月1日は、【開成ファミリー読書デー】
家族みんなで本を読もう!

●家庭・地域・学校などでの読書活動を推進するため、
開成町では毎月1日を「開成ファミリー読書デー」にし、
読書活動を推進します。

*文芸

開成俳句会

俳句

独り寝の夢の続きか初音聞く
瀬戸内のいつまで風ぎる春の海
夫の忌の墓碑に休める春の鳥
五輪果て悲喜こもごもや春の雪
うれしさの大きすぎたる春の月
轢りや遺跡の柱葉作りす
賑やかに声競ひあふ春の鳥
雪解晴からき音たて郵便夫
足柄の春のどか雪二度三度

波多野すみ枝
有賀孝子
遠藤マツエ
遠藤美津子
下澤操子
瀬戸悦子
濱本主雄
遠藤シヅ子
新井たか志

三月吟

初雷や森羅万象目覚めたる

初雷とは、立春以後の初めての雷。音が大きいので別名「虫出し」とも言う。今月の推薦句(初雷)に依って、天地の間に存在する全ての事物を生きたとして「目覚め」させたのである。古代からあった現象に出会えた気のある作品である。

新井たか志 選

ともしび短歌会

短歌

又の名称を「篝火草」のシクラメン
花言葉「絆」も亡夫の日記に知る
亡夫の日記の中で偶然発見したシクラメンの別名と花言葉。この花を愛でた亡夫は「絆」を常に意識し、氣遣ってくれていたのだ。それを知った作者の、改めて心から感謝している様が読みとれる。

近藤正臣 選

病室におせちの差し入れありたれば
秘かに食しぬ舌つづみ打ち

正月も入院せざるを得なかった作者は、病院の減塩食に飽きていた。そんな折のおせちの差し入れを、「下の句」の如く賞味したという。気がとがめつつも誘惑に負けた様をユーモラスに詠んでいる。

府川ハツエ

二月詠

開成町大井町つなぐ大橋の
名前は相応しく足柄紫水

待望の大橋の竣工。橋の名は、地域の総称「足柄」と各町の花から一字ずつ採り、更に「山紫水明」に因んでの命名とのこと。粋な名称の橋は愛され、地域の活性化に結びつくと期待を寄せての歌。

石井はま江

開成町と富士山

(その1)

富士山が世界文化遺産に登録されたことに合わせて、「開成町と富士山」シリーズを連載します。おたのしみください。

☎ 教育総務課 ☎82-5221

富士山が世界自然遺産ではなく文化遺産として登録された現実を、日本はきびしく受けとめ、今後は文化自然両方で世界に誇れる、きれいな山を目指しましょう。

富士山の名前は、最初は「福慈」―幸せとやさしさ、ついで「富士」―奥ゆかしい美しさ、と書かれました。さらに多くの魅力から次の字も使われています。不二山：二つとない美しさ 不尽山：限りなくきれいな七宝山：雪が輝く四方山：四方の形が整っているほかにも、みなさんでよい名前を付けてください。私は富士山に二回登りましたが、当時はまだ車道がなく、二回とも一合目からの歩自登山でした。

さて、最初に登った人はだれ? 伝説では聖徳太子が黒い馬で頂上に登り、空を飛んで奈良に戻ったそうです。実



山頂からの山中湖 明治38年(1905)年
ハーバード・ボンディング撮影
『幕末明治の富士山』(山川出版社)より

際には、平安初期の八五〇年の『富士山記』(都良香編)に登らないとわからない頂上のようすが正確に書かれています。この頃、野山で修業する山伏が最初に登ったものと思われ、一般男性の登山(江戸末期まで女性禁止)は、噴火が一時おさまった六五〇年前の室町時代から、カメラがとらえた頂上の風景では、左の写真が最古の映像と思われる。

待望の世界遺産登録、みなさんも機会があれば富士山型のほうし、メガネフレーム、バッチ、お皿、お弁当、クッキー、水田模様などを作ってお楽しみください。

(文化財保護委員会 井上東亜)

瀬戸屋敷ひなまつり

お屋敷いっぱいひな人形

☎ 産業振興課 ☎84-0317

2月22日(土)から3月9日(日)まで、あしがり郷瀬戸屋敷にて、瀬戸屋敷ひなまつりが開催されました。瀬戸屋敷は、代々地元の名主を務めてきた瀬戸家の屋敷で、江戸時代の農村文化を今に伝える町の重要文化財です。瀬戸家収蔵のひな人形や町

婦人会の手作りの色とりどりのつるしひな(7千個以上)が飾られ、多くの来園者で賑わいました。

また、今回特別展示として町内の蔵から発見された約3百年前のひな人形「享保雛」が展示されました。

享保雛